



JAPAN HANGGLIDING FEDERATION

# JHFレポート

1・2月号  
2003年

(社)日本ハンググライディング連盟 発行

<http://jhf.skysports.or.jp/>



## 謹賀新年 フライヤー登録の移管完了、JHF新時代へ。

2000年1月1日、財団法人日本航空協会のフライヤー登録(航空スポーツ登録制度)がJHFに移管され、念願のフライヤー会員登録がスタートしました。3年をかけてすべての登録フライヤーがJHFフライヤー会員登録に移り、2002年12月31日に移管作業が完了。これで「会員から集めた会費によって運営する」という、社団法人の本来あるべき姿になり、JHFの新しい時代が始まります。大切な情報伝達手段であるJHFレポートも、今後は全登録フライヤーのお手元に届きます。



## JHF役員選挙を実施。連盟の舵とりに相応しい役員を。

2002年12月20日の選挙公示(2ページに掲載)のとおり、JHF役員選挙を行います。ハンググライディング・パラグライディング発展のため、末長く楽しいフライトを続けるために力を貸したいという方、ぜひ理事・監事に立候補を。また、投票できるのは正会員(都道府県連盟)ですが、正会員を通して、フライヤー会員全員がJHFの舵をとる重要な人間を選ぶのです。役員選挙にご注目ください。

訂正:前号で3月31日の現役員任期満了にともない.....としましたが、現役員は2001年6月就任のため、任期は2003年6月20日までです。しかし前回選挙が6月まで延びたことは異例であり、従来どおりの任期に戻すために現役員は3月31日で辞任する方向で調整中です。



## 辻強選手、二度目のPG日本選手権を獲得。

10月9日から14日まで、岡山県阿哲郡大佐町の大佐山フライトエリアで「2002パラグライディング日本選手権 in おおさ」を開催しました。5日間に2フライトが成立、2本とも1000点の辻強選手が満点優勝。2000年に続き二度目の「日本一」に輝きました。(4ページの選手権報告、11ページのインタビューをご覧ください。)

写真1:日本一の座をかけて次々タイクオフ。(撮影:中目みどり)  
写真2:総合トップ3。左から2位川地正孝選手、1位辻強選手、3位加藤豪選手。  
写真3:女子トップ3。左から2位水沼典子選手、1位平木啓子選手、2位御手洗美智子選手。



## 2002年ポイントランキング発表。

10月にハンググライディングシリーズ、11月にパラグライディングのジャパンリーグとスポーツパラグライダーシリーズ(SPS)2002年のポイント大会すべてが終了、各ランキングが決定しました。(3ページをご覧ください。)



## スカイ・レジャー・ジャパン'02 in 都城、賑やかに。

11月9日・10日、宮崎県都城市上水流町の大淀川河川敷でスカイ・レジャー・ジャパンが開催されました。空のスポーツほとんどすべてのジャンルが参集。2日間で約6万人の観客が訪れ、大盛況でした。JHFは実行委員会の一員として参加。宮崎県ハング・パラグライディング連盟が中心になりフライヤーの協力のもと補助動力付ハンググライダー・パラグライダーの展示及びデモフライトを行いました。

写真4: JHFのブース前で、宮崎県連盟の皆さんが観客に対応。(撮影:瀬戸口裕郎)  
写真5: 補助動力機を展示。興味を示すのは若い年代より中高年に多かったようだ。(撮影:瀬戸口裕郎)



JHFレポートは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

JHFレポート 1・2月号		もくじ
P2-2003年を迎えて	P2-JHF役員選挙公示	P3-2002年ポイントランキング
P4-2002年パラグライディング日本選手権 in おおさ	P6-安全講座	P7-事故調査報告
P8-県連だより	P9-県連ニュース/カレンダー	P10-委員会の動き
P11-JHF活性化対策委員会から/辻・平木選手インタビュー	P12-理事会ダイジェスト/理事活動報告	P13-@sky

2003年を迎えて

# 安全で楽しい自由フライトのために



社団法人 日本ハンググライディング連盟 会長 朝日 和博

新年明けましておめでとうございます。  
春は眩い日差しの中、大自然の生命力を感じながら、力強いサーマルを存分に楽しむ。夏は大地に映る積雲の影を上空から眺めながら、暫しの涼を味わう。秋は錦に化粧した山の紅葉を空から楽しみ、冬は幻想的なダイヤモンドダストの中を飛ぶ。昨年もたくさんの感動を味わうことができました。

大気力強いリフトに支えられながら大空を飛ぶことは、この上ない幸せであります。この感動をいつまでも持ち続けることができるよう、そしてもっと多くの人に知っていただくことを願って、今年もJHFは頑張っていきます。総ての人々と共に心を通わせながら、大自然の環境を大切に、未永い自由フライトを守っていききたいと思います。今年も安全を第一として、ともに大空を楽しみましょう。

長年の課題であったフライヤー登録業

務の移管が、3年間の移行期間を経て完全に終了いたしました。今後は気持ちを新たに、JHFの更なる発展に努力して行きたいと思っております。その為には、事故防止が何よりも大事であります。これにはJHFの存立がかかっております。総てのフライヤーの自由飛行にとっても全く同じ事であり、事故は決して個人の問題にとどまる事はありません。総ての人の問題であります。フライヤーひとりひとは同じ大空の楽しみを共有する仲間であり、また多くの人々に支えられております。一度事故が発生すれば、本人は勿論の事、関係者にとっても大きなダメージとなってしまいます。事故を限りなくゼロに近づける努力を怠ってはなりません。

次に、JHFが目指すことは内部システムの点検であります。常に内省を怠らず、話し合いを重ねながら改革を進めていかなければなりません。時代に対応しなが

ら適切な変化を続けていく歩みを止めてはなりません。同時に各都道府県連盟もフライヤーの輪を広げ、より一層安全で楽しい体制を整えていただきたいと思います。JHFはできる限りの援助をしていきたいと思っております。

また、JHFは多くの人々に空の楽しさを伝えていきたいと思っております。国体競技になることを目指して努力していきます。日本国内での世界選手権開催の計画も検討されておりますが、世界各国の団体と連携を取りながら、スカイスポーツを通じた交流と連帯によって平和の輪が広がることを願っております。

さらに今年は、第三者への責任を担保するだけでなく、多くのフライヤーに期待されている各種保険システムが充実できるように検討してまいります。できる限りご期待に応えられるようJHFは努力してまいりたいと思っております。皆様のご支援をお願い申し上げます。

## JHF 役員選挙公示

公示日 平成14年(2002年)12月20日

社団法人 日本ハンググライディング連盟 選挙管理委員会 委員長 内田 孝也

「社団法人日本ハンググライディング連盟定款」第13条(役員を選任)に従い、平成15年役員改選期の役員選挙を「JHF役員選挙規程」に則って、下記の通り執り行うことを公示致します。

選任役員定数	理事 6名以上11名以内 監事 1名以上2名以内
立候補受付開始	平成14年12月20日(金) 午前10時
立候補締切日	平成15年2月4日(火) 午後5時 (立候補届が郵送の場合は、当日消印有効とする)
立候補者公示日	平成15年2月18日(火)
選挙投票日	平成15年3月11日(火) 社団法人日本ハンググライディング連盟総会にて

なお、立候補締切に先立つ書類の事前判定日(選挙規程第44条)は、平成15年1月29日(水)とします。JHF役員選挙規程に従い、この日までに提出された立候補届に不備があった場合、締切日まで修正を受け付けます。以上

### 選挙

### JHFの舵をとる役員を選びます。

上の公示のとおり、2年に一度のJHF役員(理事・監事)選挙を行います。選挙公示書の原本など、公式資料は正会員(各都道府県連盟)に送付します。理事や監事になって貢献しようと思う人は、お住まいの都道府県の連盟にご連絡ください。JHFホームページにも選挙のページを設けています。また選挙管理委員会へのメール等での相談もできます。

連盟役員なんて難しそうで自分にはできないと感じる人もいるでしょう。しか

し、選挙公示日の12月20日時点でJHFのフライヤー会員であれば誰でも、つまりこれを読んでいるあなたも役員候補なのです。自分なら何が出来るか、仲間のまとめ役のあの人ならどうか、これを機にJHFの将来のために考えてみませんか。

47の都道府県連盟は3月総会での投票でそれぞれ一票を持ちます。また、その都道府県に住み役員に立候補しようとする人を推薦する役目も持っています。

推薦を受け役員候補に名乗りをあげた

人は、立候補届を選挙管理委員会に提出します。立候補届が受理された候補者は立候補者公示で発表します。このとき投票方法も選挙管理委員会が公示します。立候補者の顔写真と立候補文は2月20日発行のJHFレポート3・4月号に掲載の予定です。

JHF役員にふさわしい人に当選してもらえるよう、あなたの意見を代表してくれる都道府県連盟に、大切な一票を誰に投じるのか確かめることも大切です。

# 2002年ポイントランキング決定



板垣 直樹



岡田 明子



加藤 豪



水沼 典子



矢野 孝史

2002年のポイント大会が終了、各順位が決定。両競技委員長、トップランカーに2002年の競技を振り返ってもらった。

HG競技委員長 日下部 はく

2003年ルール改正を前に、GPSによるパイロン通過証明を補助的に判定に採用。最初のうち選手は戸惑ったようですが、大会を重ねるにつれGPSの便利さが理解されるようになり好評でした。

減少傾向にあった登録選手数が、前年より19名増の129名と、増加の兆しを見せました。大会現地での登録受付や登録料値下げ等の効果が表れたようです。このまま登録が増え続けることを期待します。また、学生リーグの影響か学生の登録も増え、若い力が好成績を残しました。

2003年からパイロン通過証明にGPSを用い、ほとんど全面的にルールが改正になりますので、ご注意ください。

2003年は、8月にブラジルでクラス1の世界選手権があります。今回はチーム14位とふがいない結果。今回は個人成績はもちろん、チーム成績もシングルを目指し頑張ってもらいたいと思います。

## ハンググライディングシリーズ

1位	板垣 直樹	茨城県	213.35点
2位	大門 浩二	茨城県	203.35点
3位	鈴木 博司	三重県	191.14点
4位	平林 和行	千葉県	189.55点
5位	大沼 浩	茨城県	188.03点
6位	安東 正夫	東京都	186.50点
7位	今嶋 功	鳥取県	178.04点
8位	岡田 伸弘	静岡県	170.78点
9位	氏家 良彦	大阪府	161.56点
10位	峰岸 正弘	茨城県	160.67点

## 女子最高位

20位	岡田 明子	静岡県	131.58点
-----	-------	-----	---------

板垣 直樹さん

年頭の2大会は不参加でしたが、出場した大会はしっかり上位に入れました。特に優勝を意識しなかったため、気負わず楽しめ結果が残せたと思います。

大会で実力を発揮するためには、自分の技量に応じた目標を設定することが大切。確実に自分の実力を分かっているはずと成績はついてくるものです。

普段は、その日の条件を考慮して少し厳しいタスクを設定し、いかにタイムを縮め、いかに早くゴールするかをイメー

ジしながら飛んでいます。

いいグライダーに恵まれており、来期は気負わず大会を楽しみます。

岡田 明子さん

2002年は十分一での日本選手権が印象深く、平野を飛べたのが楽しかったです。世界選手権では、ソアリングして高度を稼ぐことはもちろん、その後のグライドの重要性を痛感しました。

女性フライヤーは、適正体重の男性に遜色無く飛ぶのは難しいでしょうが、グライドコースを変える等の工夫次第で男性に負けない飛びができると思います。

2002年は前年と同じ20位。次はもっと上げられるよう頑張りたいと思います。

PG競技委員長 曾我部 真人

2002年も14戦中5戦と成立する大会が少なかったのが残念です。登録選手の参加状況も悪く、いまひとつ盛り上がり欠ける面もありました。現在の登録選手は約150名ですが、大会に集まるのは50名ほど。もっとポジティブに大会を楽しもうという気持ちが大切だと思います。

各大会を運営してくれた方々はよく頑張ってくれました。今後も大会を運営してくれる団体が増えることを願います。

2002年からGPSを使用したレースが始まりましたが、まだGPSを使い慣れていない選手が多いようです。普段から練習を積んで大会に臨んでください。

2003年は、とにかく多くの大会が成立し、更に多くの選手に参加してもらって、大会が盛り上がることを願っています。

## パラグライディング ジャパンリーグ

### 【総合】

1位	加藤 豪	兵庫県	407.0点
2位	只野正一郎	兵庫県	381.5点
3位	扇澤 郁	富山県	330.9点
4位	辻 強	茨城県	289.4点
5位	川地 正孝	神奈川県	268.2点
6位	長島 信一	埼玉県	242.5点
7位	宮田 歩	茨城県	241.1点
8位	小幡 洋三	愛知県	144.1点
9位	伊澤 光	東京都	142.4点
10位	川口 竜太	東京都	136.9点

### 【女子】 内は総合順位

1位	水沼 典子	栃木県	76.5点(20)
2位	和田 有加	東京都	58.1点(30)
3位	平木 啓子	北海道	26.5点(51)

加藤 豪さん

Jリーグには大佐での日本選手権にしか参戦できませんでした。日選の勝敗をきめたのはファイナルやゴールのタイミングだと思います。2本とも1位の辻さんの浮きのよさに勉強させられました。

2002年の海外戦は各地とも好条件で、とても楽しかった。特にイタリアの大会でフラットランドがタスクに組まれたのが面白かったです。アクロの大会にも参加しました。湖上でもあり、つついやりすぎてしまい結果は散々。普段どおりにやればよかったなと思いました。

皆さん、兵庫の青垣に是非来て下さい。フランスのエリアを小さくした感じでテクニカルな練習ができますよ。

水沼 典子さん

2002年、最も印象深かったのは韓国の大会です。韓国は日本との時差も無く、風景も似ている所があり、リラックスして飛べました。2日間しか成立しなかったけれど、とてもいいエリアでした。

大会で意識しているのは、体重が軽いため、風が強い場合はコースどりなどに慎重にすること。2002年の目標はスピードアップでしたが、最後の判断で迷いが出るなど自分のフライトができませんでした。2003年の目標は、どんなサーマルでも誰よりも早く上げ、サーマル発見能力の精度を高めることです。

## パラグライディング SPS

1位	矢野 孝史	大阪府	333.3点
2位	植田 和幸	奈良県	324.5点
3位	林 育	大阪府	318.6点
4位	永井 敏夫	兵庫県	309.8点
5位	大西 恵博	大阪府	302.5点
6位	山崎 義夫	愛知県	298.1点
7位	坂下 剛司	大阪府	296.6点
8位	北尾 典道	和歌山県	292.2点
9位	安積 宏幸	和歌山県	273.1点
10位	西 三郎	大阪府	264.3点

矢野 孝史さん

2002年のSPSは3戦のうち、紀ノ川での大会しか成立しなかったのですが、結果に関してはとにかくラッキーでした。

1年を振り返ると全般的に天候が悪く、週末もあまり飛ばず残念でした。2003年はもっと飛ばりたいと思います。また、機会があればJリーグ、SPS等の大会に参加したいと思っています。



上から辻、川地、加藤、宮田各選手、ゴール前のグライド。

# 辻 強選手 再び日本一!

2002年パラグライディング日本選手権 in おおさ



前年Jリーグチャンピオン、加藤豪選手のテイクオフ。

## 町をあげての大イベント

大勢の観衆が見守る中での日本選手権。そんな夢のような大会が、岡山県阿哲郡大佐町で開催された。大佐町は全国でも珍しい第三セクターでパラグライディングスクールを営んでいる町だ。町長である梅田和男氏もフライトを経験しているというほど、パラグライディングが地域に根ざしている。いたるところにある日本選手権の吹き流しは、町をあげてのイベントという感がある。大会期間中のイベントデーには、公道を閉鎖し、町の様々な民芸品や特産物のブースが並び、ランディング場の脇ではパラグライディング体験会、ペットボトルロケット打ち上げコンテスト等々、空にまつわるイベントが目白押しで、町内の住民が全てここに来たのではないかと思えるほどの大反響だった。

## 1 本目、満点ゴール!

10月10日 競技1日目 タスク1  
好コンディションが予想され、スピードランのタスクを発表するも、動きが鈍い選手を覆うように高層雲が張り出し、ミニマムをクリアできず。最長距離を飛んだ辻選手と只野選手も18.9kmと僅かに20kmに及ばず、キャンセルとなる。

10月11日 競技2日目 タスク2  
TO-D-L-C-L-L-F-LD1 31.3km  
朝から雲ひとつない快晴。まさに大会

日和の天候だが、気象情報では接地逆転層がきつく、それほど高い雲底は望めないとのこと。

発表されたタスクはゴールレース。テイクオフポイント(標高880m)のある大佐山(988m)から谷をひとつ挟んだ赤岩山の上にある鉄塔(Lパイロン660m)と、テイクオフの裏手にある牧場小屋(Cパイロン680m)を2往復半し、メインランディング場(350m)洗の小山山頂にあるアンテナ(Fパイロン500m)を取り、ゴールはメインランディングというもの。

レース序盤。最初のLパイロンからの戻りで篩にかけられる。この時点ではまだ気象条件は揃っていない。わらわらと蜘蛛の子を散らすようにサーマルに蹴られた選手達が、次々とランディングを強いられる。そんな状況下でもトップ集団(辻、扇沢、川地、宮田、只野、加藤、宇治山)は最初のCパイロンをクリアし、テイクオフ前の南斜面で上げ直す。この時点で勝機が見えたのか、辻選手は勝負を仕掛ける。扇沢選手と只野選手は2度目のLパイロンへ向けてグライドを始めるも、気象条件の厳しさから引き返す。辻選手は高度が低くなりながらもそのままグライドを続け、2度目のLパイロンを取った後、弱いサーマルを引っかけ少しづつ上げ始める。この時点で辻選手は完全にトップ集団からワンサーマル抜け出したことになる。

辻選手に追従する形で、2度目のLパイロンをクリアした川地、只野、加藤各選手

は直線ルートで2度目のCパイロンへ。扇沢、宮田、宇治山各選手は山伝いのコースをとる。Cパイロンをクリアした後、僅かに高度が低かった宇治山選手は遅れ、戦線から脱落。直線ルートを選んだ川地選手、加藤選手、只野選手は高度をロス。山伝いに戻った扇沢選手と宮田選手は高度のロスが少なく、その僅かな高度差でセカンド集団の中から一歩抜け出すことになる。

再びLパイロンへ向かうべく、テイクオフ前の南斜面で上げきった扇沢選手が雲底に着き、辻選手を追いかける。続いて宮田選手が続く。3度目のLパイロンを通過した後、辻選手、扇沢選手は順調に駒を進めるが、宮田選手は山を越えられずにスタックしてしまう。粘りながら斜面を上がってくる弱いサーマルをなんとか捕らえ上昇し始めた宮田選手の下に、川地選手、加藤選手、只野選手が加わる。最終パイロンであるFパイロンへ向けて、宮田選手、川地選手、加藤選手が山廻り、只野選手が若干高度を低めにダイレクトコースをとる。

序盤から先行した辻選手がそのアドバンテージを活かし、1時間26分33秒で最初にゴールメイク。続く扇沢選手が1分遅れて1時間27分46秒でゴール。3位争いは、ダイレクトコースをとった只野選手が、宮田選手、加藤選手をかわすも川地選手をかわすことができず、2位は1時間32分44秒で川地選手。1秒遅れて只野選手。その後1分内に加藤選手、宮田選手

が続々とゴールする。

この日は予報とは裏腹に、リフライト組を含めて26名がゴールメイクするという尻上がりのコンディションに恵まれた。

## 2 本目、他の追隨を許さず。

10月12日 競技3日目 タスク3  
TO-D-T0-L-C-L-G-L-F-LD1 31.8km

乾燥した澄み切った秋空に、強い日差し。積雲が発生せず、ブルーサーマルという条件。午後には高層雲が張り出すとの予報だ。

午後の高層雲の張り出しを気にしてなのか、先を急ぐ選手は続々とタスクトランプにかかってしまう。ブルーサーマルで、サーマルサインが見つからないこともあるのだろう。降ってしまったほとんどの選手は「トリッキーだ」と口をそろえてコンディションを気にしていたが、これには大佐の地形が大きく関係している。大佐山は、中腹にオートキャンプ場やケイマンゴルフ場がある。条件が重なれば、充分サーマルのトリガーになるのだが、広範囲が暖まってしまい、強いサーマルが形成されづらい地形でもある。したがって、優位にレースを展開しようと考えると、この台地よりもある程度の高度を持って移動、もしくは戻ってこなければならない。どのタスクでも、キーポイントになっているのがLパイロンからの戻りなのだ。

タスクは昨日とほぼ同様にLパイロンとCパイロンの往復から始まり、そこへ沖へ行かせるGパイロンが加わっている。選手権では、ぶっちぎるより、コンスタントに成績をまとめた者が勝つ。そのこともあってか、序盤、中盤と、みな集団になり、なかなか動きを見せない。

動きがあるとすれば、沖へと向かうGパイロン。やはりここでレースは動いた。

勝機を見いだした扇沢選手が真っ先にGパイロンへとスパートをかける。ダイレクトコースを取り、完全に集団から抜け出た形で独走態勢に。ゴールで選手を見守るスタッフ達も、真っ先にゴールへ飛び込んで来るのは扇沢選手と思っていた。が、最終パイロンのFへは距離が足りず、扇沢選手はゴールへ姿を見せることはなかった。

リスクを避けて山廻りで動いたトップ集団は、難なくG、Lパイロンをクリア。残すはFパイロンを含めたファイナルグライドのみ。テイクオフ前の南斜面で上げきって、先に仕掛けたのは川地選手。それを追う辻、加藤、宮田各選手。少し遅れて吉川選手、只野選手、後藤選手が次々とファイナルグライドに入る。

最終パイロンをクリアした川地選手を、わずかな高度差を活かし、辻選手がゴール手前で抜いてトップゴール。2秒差で川地選手もゴールメイク。続々と後の集団もゴールへなだれ込む。

昨日、今日と連続してトップゴールを決めた辻選手は、「調子がいいよ。絶好調だね。今年はいただきだよ」と笑顔がこぼれる。

一方、日本選手権連覇を遂げたい川地選手は、「ファイナルグライドを先に切らないと勝てないと思って先に切ったんだ。けど、辻もすかさず切ってたんだよね。この時点でダメだあって思ったね。最終パイロンを回った時には抜かれた」と悔しさから肩が沈んでいる。

また、宮田選手はゴールラインをやっと30cm越えるほどのギリギリのゴールカットをし、ギャラリーからも歓声があがった。「おおー俺はツイてるぞ!」と快哉をあげる宮田選手はノッている。

10月13日 競技4日目

寒冷前線通過のため、早々とキャンセル。この日はイベントデーで、ランディン

グ場脇は町中の人々で賑わった。

10月14日 競技5日目

大会最終日がレースを観る者にとっては一番面白い。それは、得点差がないことで、辻選手以外は必ずどこかで勝負を賭けてくるからだ。しかし、皆の気持ちとは裏腹に、テイクオフではフォローが止まない。長島競技委員長も、なんとかもう1本成立との気持ちで、13時30分までウェイトイングさせるも断念。

この時点で、辻選手が2度目の日本選手権者を勝ち取ることになった。

## 訪れた人たちの笑顔

観衆が大勢いるバラの大会。海外ならともかく、まずこのこと自体に驚きを感じる。以前ほとんどの大会では、見学に来る人がいてもわずかに過ぎず、またその競技の説明がされることは皆無に等しかった。天気がいいのに飛ばない、飛んではいいがどこかへ行ってしまった、いったい何を競っているのか等々、競技を理解していない人にとってはまったく理解不能なものだ。見ようによっては、一種のカルト集団が集まっている異様な光景かもしれない。

2001年、山形県白鷹町で開催の日本選手権では、大会内にイベントを加え、一般の人々にも競技が理解されるような配慮がされていた。今回もメイン会場となったランディング場付近には音楽が流れ、パラグライディングのビデオの上映や、MCが入ったレースの状況説明等々によって、全く競技が分からない人たちにとっても、確実にレースの臨場感は伝わっていた。また競技自体に興味がなくとも、会場は一般の人にも十分に楽しめる環境づくりが配慮され、訪れた人々の顔はみな笑みがこぼれていた。

[文と写真:JHF広報出版部 松原 正幸]



大逆転が期待される最終日、風向きが変わらずキャンセルに。

## 上位成績

[総合]

1位	辻 強	茨城県	2000点
2位	川地 正孝	神奈川県	1932点
3位	加藤 豪	兵庫県	1924点
4位	宮田 歩	茨城県	1912点
5位	只野正一郎	兵庫県	1865点
6位	扇澤 郁	富山県	1590点
7位	後藤 雄大	埼玉県	1570点
8位	吉川 正雄	兵庫県	1543点
9位	岩沢 広喜	東京都	1529点
10位	小川 剛	山口県	1527点

[女子]

1位	平木 啓子	北海道	1278点
2位	御手洗美智子	山口県	899点
3位	水沼 典子	栃木県	882点

# オヤジたちよ!

拝啓 オヤジ殿

娘や息子以外の者からオヤジと呼ばれて嬉しい人は少ないだろうが、あえて親愛の情をこめ、中高年フライヤー諸氏をオヤジと呼ばせていただく。

不況、リストラ、テロ、拉致、戦争……世に憂いの種は尽きない。2002年の事故報告書を読めば、ここにも憂いの種。

JHF安全性委員会の報告によれば、11月20日時点で11名がハングライダー、パラライダー、動力付きのハングやパラの事故で亡くなっている。事故ゼロを誰もが願い、さまざまな努力が為されているにもかかわらず! 非常に残念だ。

亡くなった方々のご冥福を祈りつつ、その年齢を見ると、48歳、44歳、39歳、47歳、48歳、55歳、56歳、41歳、71歳、47歳、65歳と、ほとんどが働き盛りのオヤジ世代だ。性別は全員男性。これはどうしたことだろう。中高年の女性フライヤーは絶対数が少ないから、男性ばかりというのは、まあ、頷ける。しかし、この年齢は片寄っていないか。フライヤーの平均年齢は以前より高くなっているのだろうが、それにしても……オヤジよ、あなたはこれをどう考えますか?

偶然かもしれない。たまたまこうなっただけかもしれないが、もう誰にも彼等の後を追ってほしくない。そこで、オヤジが陥りそうな落とし穴を私なりに考えた。オヤジも若者も男も女も一緒に考えてもらいたい。以下に問題をあげてみます。

## 人の話を聞かない

人間、40年、50年と生きれば、いろいろな知恵がつく。それをフライトにも活かすことができればいいが、なかには偉くなってしまって、インストラクターやフライト仲間のアドバイスを聞かないイヤなオヤジもいる。自分の子供のような若いインストラクターの言うなりになったら、活券にかかわるとでも思うのか。そういうオヤジに限って、自己主張は人一倍する。しかし、自分が常に正しいとは限らない。周囲の意見を素直に聞く謙虚な気持ちで、いくつになっても持ち続けたいものだ。

## 自勝手

周囲のことは一切考えず我が道を行く。他人の迷惑を顧みず自分勝手な行動・言動。フライトマナーなんぞ犬に喰わせろ……と思うくらいならまだいいが、自

分がマナーに反していることも理解しない。半世紀も人間をやっている、それぞれ「自分流」が身に付いている。だが、空でそれを通すのは、嫌われるだけでなく危険だ。自分の勝手な動きが事故を招き、他機を巻き添えにするかもしれない、エリア閉鎖につながるかもしれない……そんなことも考えてほしい。

## 体力の衰え

実年齢より若く見えるオヤジフライヤーは多い。フライトでも若い者に負けない。しかし、肉体は着実に年をとる。筋力が衰え、体が硬くなり、少しずつ反射動作がゆっくりになっていく。以前は軽くてきたのに、いつの間にか息切れするようになり、ちょっとしたことで思わぬ怪我をする。ハング&パラグライディングはスポーツだ。他のスポーツと同様、長く楽しむためには日頃の体力作りが大切だろう。また、視力・視界検査を含む健康診断を定期的を受け、しっかり健康管理をしたい。

## 過剰ストレス

人間誰しもストレスにさらされている。オヤジ世代は特に、さまざまな精神的・肉体的ストレスを感じるだろう。

## モーターパラグライダーの着水実験

2002年8月3日・4日、徳島県の鴨島町で「吉野川フライイン」が開催され、動力付きパラグライダー・ハングライダーのパイロットが多数参加。広々とした吉野川エリアでのフライトはもちろん、エンジンユニットを背負って水に飛び込む実験が行われた。

以下は徳島モーターパラグライダークラブ「スカイフリーク」の椋本清治代表からの報告をまとめたものだ。尚、この実験の様子を収録したビデオ(1200円+送料)を希望する方は椋元氏まで連絡を。

TEL.090-3181-6317

### 場所と機材

波や流れを避けて、吉野川の伏流水がプール状になったところを選び、飛び込み台を設けた。安全のため、立てば顔が出るくらいの深さの場所にし、足を曲げていれば飛び込んで川底にぶつからないことを確認。

使用した機材は、エンジンユニット、前ファスナーでベストタイプのハーネス、水に入ると自動的に膨らむ浮力体(マリンポーチとマリンベスト)紐を引っ張ると膨らむ手動式浮力体。

### 実験

ガソリンタンクが空の場合  
少しだけ浮く。マフラーやエンジン内の空気も浮力になるが、すぐ水が侵入してこの浮力もなくなる。

ガソリンタンクが満タンの場合  
満タンを想定してタンクに水を入れて実験。空の場合と違い、まったく浮かない。呼吸するため必死に泳がねばならず、ハーネスをはずすのは困難。

### マリンポーチ

膨らむまで約10秒かかり、エンジンを背負った状態では膨らんだマリンポーチにつかまっても沈む。多くの人がハーネスやユニットにマリンポーチを付けているが、ハーネスをはずすと浮力体も捨てることになる。

### マリンベスト

約5秒で膨らみ、首にかけると何とか浮いていられる。人間に装着すること、両手が使えることが利点。

### 手動式ライフジャケット

ハーネス内側に装着した場合、ハーネスから離脱後に膨らませる。先に膨らませるとハーネスのファスナーや金具が引っ

張られ、はずせなくなる。ハーネス外側に装着した場合、取り付けに注意しないとライフジャケットのベルト等が絡んでハーネスをはずせなくなる。

### まとめ

事前に考えていたことと実際に行った結果では食い違いがあった。ユニットからの離脱も個人差があり、練習が必要。

水面に顔を出しやすいう、まず上半身からハーネスをはずすといい。

水中ではハーネスのファスナーに着衣が引っ掛かりやすいので、要注意。

プロペラガードやフレームパイプに水が入らないようコーキングしておく浮力になる。

浮力体は人間1人用なので、浮力不足。人間用とエンジン用、2個装着が必要。また、取り付け位置にも注意が必要。

キャノピーやラインが絡んだ時のためナイフ等も用意した方がいい。

\* 実際は実験と異なり、ヘルメットや手袋を装着している。また冬期は着膨れした状態でもある。低水温、着水の衝撃でダメージを受け、体が自由に動かないことも考えられる。

だからこそ、フライトが最高の息抜きになる。しかし、空で解消できる程度ならいいが、あまりに大きなストレスを抱えていると、ものごとに集中できなくなる。憂さ晴らしに飛んだのに、空白の時間が訪れ、気流の変化に気付くのが遅れて山チン……では、踏んだり蹴ったり。身も心もくたびれたなあと思ったら飛ばない。足を大地に付けてゆったりすることだ。

#### 飲酒・服薬

フライト前夜の飲酒は慎むべきだ。断

り切れず( 率先して? )酒量が過ぎてしまったら、エリアに行くのはキツパリ諦めるくらいの覚悟が必要。深夜まで飲んでいれば当然、睡眠不足でもある。もう徹夜でドンチャン騒ぎしたハタチの頃とは違うのだ。エリアに出発する前に自分のコンディションをチェックしたい。

また、持病があって服薬している場合、その薬の働きに注意すべし。空を飛ぶことを明らかにし、沈静効果のある成分が含まれていないかどうか、医師に確認す

る。眠気を催すような薬をのんでフライトするのは危険行為だ。

親愛なるオヤジフライヤーよ、落とし穴にはまることなく、ますます元気にフライトを楽しんでください。若者が目標にするような、カッコいいジイサマフライヤーを目指して、日々研鑽を怠りなく。ご活躍をお祈りします。 敬具

JHF広報出版部 松田 保子

## 事故調査報告

9月15日、兵庫県朝来郡朝来町さのう高原で起きたパラグライダー墜落事故につき、JHF安全性委員会が調査を行った。パイロットは亡くなり、一部始終をずっと目撃していた者もないため、何が原因で墜落したのか推測するしかないが、大きすぎるグライダーに乗っていたことが要因とも考えられる。

渋い条件でも人より高く上がりたい。そう思うのはフライヤーとして当然だろう。しかし適正飛行重量に届かない体重で翼面積の大きなグライダーを使用するのは、リスクを背負うことでもある。パラグライダーに限らずハンググライダーでも、機体購入の際は、そのグライダーの性能・特性やサイズが自分に適したものかどうか、客観的に考えてほしい。

### JHSC事故調査報告より

#### 認定した事実

##### 1 飛行の経過

事故機の飛行経路の詳細は、搭乗していたパイロットが死亡しているため不明である。しかし同時間帯に飛行していた他機とほぼ同一の経路を飛行していたものと思われ、目撃証言から事故機の飛行経過は次のように推定される。

事故機はレジャー飛行の目的で、2002年9月15日(日曜日)13時15分頃、さのう高原のテイクオフ場(標高670m)を、北西の風約1m/sのなか離陸した。

離陸後、同機は西側に位置する尾根を回り込み、風下側にあるランディング場(標高187m、高度差483m)方向に飛行したと思われる。

飛行経路上では所により弱いリフトがあるものの高度を獲得するほどではなく、多少上下する程度の気流状態の中を、ランディング場を目指して飛行した。その後、ランディング西側上空(約300m)で両翼端を折り、しばらく(時間は不明)その状態でフライトした後、両翼を戻す。直

後 ほぼ同時 ゆっくりとした左回りのフラットスピンに入り約3回転した。この時点でパイロットとグライダーがツイスト(捻れ)し、グライダーは南方向、パイロットは北向きとなる。いったんスピニングが停止したが、すぐに逆回転(右回り)のフラットスピンに移行して約3回転する。その後スピニングは停止したが、両翼が折れた状態になり、後退しながらストールし3~4秒降下した。

この間グライダーのラインとライザー、ブレイクコードは捻れ、ブレイクコードが引かれた状態のまま固定された状態であったため、操作不能であった。このため翼の後縁の操舵面はフルグライド状態に戻らない状態となっていた。

その後、片翼が潰れから回復したためスパイラルダイブに移行し、急旋回降下をし続けたまま、ランディング場付近の水田へ墜落。パイロットは約4時間後、収容された病院で死亡した。

事故者はスプリング射出式緊急パラシュートを装備していたが、使用操作をしたかどうかは不明。

##### 2 機体の損壊に関する情報

キャノピー部分、ライン各部、ライザー部、計器類、ヘルメット、いずれも損傷の報告は無い。

##### 3 機体に関する情報

耐空証明はDHV1-2取得。総飛行時間、総発航回数は不明。メーカー発表の適正飛行重量は、最小85kg~最大105kg。事故者にとって5機目の購入グライダー。

##### 4 パイロットに関する情報

男性。47歳。裸体重58kg。1989年9月にPGパイロット技能証、1995年1月にPGクロスカントリーパイロット技能証の交付を受けている。飛行経歴は不明(飛行経験14~15年)。

##### 5 気象に関する情報

事故当時の風向、風速

テイクオフ:北北西、0~1m/s

飛行経路:北、1~2m/s

ランディング:北西、1~2m/s

事故目撃者、スクール責任者等の証言より、現場付近の風の状況は次のとおりであった。

事故発生時間帯前後にわたり同空域に於いて事故機を含め5機が飛行した。ランディング場上空までの飛行経路上は、多少上下する気流の乱れがあったが、同空域近辺では時折遭遇することのある乱流と同程度だった。ランディング場上空を通過、東の田んぼの上で高度処理して降下、ファイナルアプローチは目標のターゲットより伸びる状況。北寄りの弱い西風であったと思う。

いずれの目撃証言者からも、急激な風向・風速の変化、突風等による飛行の障害となる状況は証言されていない。

#### 原因

事故調査をして得られた情報から、今回の事故は、パイロットが追い風の中で両翼端折りにて飛行(アクセルを使用していたかどうかは不明)したため、迎角の増大を招き、失速速度に近い状態になっていたと推測される。更に両翼端折りを回復させる際に、左右のブレイクコードを操作した可能性も考えられる。その操作により両翼端折りを回復したと同時に失速しフラットスピンに入ってしまった、この時パイロットとグライダーがツイスト(捻れ)し、ブレイクコードは引かれた状態のまま固定され、操作不能状態となり、スパイラルダイブに移行し墜落したと判断される。

失速に至る要因として低翼面荷重(オーバーセール)であったことも考えられる。パイロット体重58kg、装備重量20kgとしても合計78kgであり、グライダーの最低飛行重量85kgより更に7kg前後低かった。

事故者は通常約5kgのバラストを搭載していたが、この日は風が穏やかであったためか、バラストを搭載せず飛行した。

千葉山(せんばやま)のテイクオフポイントからの眺望。

県  
連  
だ  
よ  
り



フライヤー増加のために何ができるか考えましょう。 和歌山県フライヤー連盟  
理事長 山本 順夫

明けましておめでとうございます。  
本年もよろしくお祈りします。

和歌山県フライヤー連盟の概要と近況  
和歌山県フライヤー連盟は、関西ハン  
ググライディング連盟の改組に伴い、関  
西ではもっとも遅く、平成6年12月に発  
足しました。発足後はパラグライディ  
ング日本選手権の開催、スカイフェスタ、ア  
ウトドアスポーツフェア等への参加も積  
極的に進めて参りました。また、このスカ  
イスポーツを少し違った視点から見れ  
ば、ツーリズムと言われる体験型観光の  
観光資源としても考えております。

発足当時150名近くの会員も現在100名  
を切ってしまいました。

また、1999年から2000年にかけて大き  
な事故が県内のエリアで相次いで起こり  
ました。その教訓を今後に生かすため  
にも、警察署の方々とも連絡を取りなが  
ら安全対策を構築しております。正確な事  
故内容を正しく分析し原因と対策をフラ  
イヤーに提供する事が、事故の減少につ  
なげることができると考えております。  
しかしながら、安全にフライトを楽しむ

ためには何が必要か、またフライヤーの  
減少はなぜか、要因を色々と探っており  
ますが、明確な回答が出ていないのが現  
状です。

そこで、フライヤーにとって大切なも  
のは何かを考えてみますと、まずフィー  
ルドがあります。抽象的ですが、エリアを  
通してのサービスの中にヒントはないで  
しょうか。

今後は、会員個々に、連盟として何が  
できるのかを考えていく必要がある、と  
思っております。ぜひ、皆さんのご意見  
をお聞かせください。

県内のエリアについて

和歌山県内のエリアは10年前は、紀ノ  
川のエリアただ一つでしたが、現在は  
4ヶ所になりました。和歌山県は紀北、紀  
中、紀南に分けられます。秘湯の旅をか  
ねてご家族で紀伊半島を縦断されては  
いかがでしょうか。

紀ノ川フライトパーク(HG・PG)

所在地:那賀郡打田町  
T.O.北向き  
今が最良の時期

ハング・パラともOK

詳しくはUPネストクラブまで。  
TEL:0736-77-7088

スカイパーク千葉の森(PGのみ)

所在地:有田郡吉備町

吉備町支援の下に整備されて約3年  
になります。千葉の森公園内にあり高  
低差は約530m、南西の風が最適で  
すので冬場はあまり飛ばません。眼  
下に広がる有田川の河川敷がラン  
ディングになります。現在パラのみ  
フライト可。

ビジター:1,000円

年間:5,000円

連絡先:コスモススカイクラブ

TEL:0737-63-1277

代表:竹中 清次

西山フライトエリア(HG・PG)

所在地:日高郡日高町、美浜町

T.O.南向き ハング&パラ

連絡先:和歌山県フライヤー連盟事務局

TEL:073-482-4597(どんぐり内)

大江一美

高雄山スカイエリア(PG)

所在地:田辺市

T.O.南向き パラ

連絡先:高雄山スカイクラブ

TEL:0739-47-3316 山本 順夫



ランディング場から千葉山(せんば  
やま)を見る。

和歌山県連へのお問合せは下記まで。  
和歌山県フライヤー連盟事務局  
和歌山県海南市あっそ17-3(どんぐり内)  
TEL:073-482-4597(呼)  
FAX:073-482-8876  
E-Mail:ffw.sky@viola.ocn.ne.jp



# 県連ニュース

## 静岡県フライヤー連盟

[ とんぼカップ(第21回静岡県カップ) ]

恒例のとんぼカップが11月2日(土)朝霧高原とんぼ猪之頭フライトパークにて開催された。これまでは春先に行われていたが、今年は他の競技会と重なるおそれがあったため、秋となった。

当日の午前中は晴天ではあったが、この時期としては例年よりも気温が低く、サーマルの発生が弱かった。競技はオープンクラスのみとし、アウトアンドリターンによるタスク合計点を競い、タスクの合計が1000点以上のみ時間得点を加算するものとした。

朝方は北よりの風であったが次第に南風になり、11時5分競技開始。各選手が次々とスタートを切った。競技開始直後にテイクオフした選手は前山上空でぐんぐん高度を稼いでいったが、半数ほどの機数がテイクオフしてから日が陰りはじめてきて、前山周辺のサーマルが弱まり、後半にスタートした機体のほとんどが2、3のタスク達成がやっとであった。リフラインの選手も多かったが状況が好転することは無く、多くの選手にとってはもの足りない結果となった。

14時30分のゲートクローズを待たず、全機ゴールし、予定より早めにパーティと表彰式を開始。1位はフライングダックス所属の和田浩二氏、得点970点。2位はエアロフロート所属の前川朋亮氏、並びにJPM所属の常泉雅司氏で720点。参加

総数は29機 フライトレポート提出は24機 だった。

参加者の皆さん、肌寒い中での競技、ごくろうさんでした。

[記:とんぼクラブ事務局 石塚]

## 兵庫県フライヤー連盟

[兵庫県フェスティバルの報告]

第5回の兵庫県フェスティバルは230名の皆さんに参加をいただきました。ありがとうございます。

残念ながらフェスティバル当日のフライトは出来ませんでした。前夜祭には103名の参加をいただき、お互いの交流とフライト話に花が咲いていました。今回も各メーカーさんの出展がありました。飛べなかったせいかメーカーさんは大忙しでした。

地元青垣町の皆さん、各スクール校長・役員の皆さんお疲れさまでした。

今回は八チ北蘇武岳を競技会会場に、神鍋を中級・初心者対象に考えています。

まだ確実ではないですが、次回もよろしくお願い致します。

県連フェスティバル実行委員長 西谷  
副委員長 長谷川

連絡先変更など  
岩手県ハング・パラグライディング連盟  
メールアドレス変更

RHC03232@nifty.ne.jp

福島県ハンググライディング連盟  
メールアドレス変更

sin1.teraki@nifty.com

東京都ハング・パラグライディング連盟  
事務局移転

〒194-0044 東京都町田市成瀬2737-8  
日垣昌士方 TEL&FAX.042-722-2656

メールアドレスは変更無し

tokyohpf@skysports.or.jp

静岡県フライヤー連盟  
ホームページURL変更

http://jhf-sff.hp.infoseek.co.jp/

\*最新情報はJHFホームページで。

## JHF登録スクール 新規登録・変更

登録No.100

「DKスカイジム朝霧」から校名変更 アサギリ高原パラグライダーズスクール  
ホームページURL変更 http://www.sanjuu.com/asagiri

登録No.105 新規登録

スカイウェイパラグライダーズスクール(パラグライディングのみ)

〒391-0301 長野県茅野市北山3419 http://www.monterosa.to  
TEL.0266-68-2166 FAX.0266-68-2167

# カレンダー

[場]は開催地、[連]は連絡先です。予定は変更になる場合がありますので、お出かけの際は事前に必ずご確認ください。

第17回西富士ジャパン・クラシック(HG)  
2002年12月31日~2003年1月3日 [場]静岡県富士宮市猪之頭西富士友の会エリア [連]岡田伸弘 TEL.0543-63-1429  
E-mail: nobu-okada@mi.0038.net  
パラグライダーレース in 富士山  
1月11日~13日 [場]静岡県朝霧高原  
[連]スカイ朝霧 TEL.0544-52-0304  
FAX.0544-52-0344  
E-mail: asagiri@po2.across.or.jp  
http://plaza.across.or.jp/ asagiri/

第14回丹沢スカイグランプリ(HG)  
1月11日~14日 [場]神奈川県秦野市横野地区 [連]山本剛 TEL.044-813-0127  
E-mail: yamamoto@mf.0038.net  
関西選手権2003(HG)  
2月8日~11日 [場]和歌山県那賀郡粉河町紀ノ川フライトパーク [連]宮浦博之  
E-mail: haku89@dream.com

2002年度JHF3月通常総会  
3月11日 [場]東京都羽田空港ビッグバード [連]JHF事務局 TEL.03-5840-8311  
2003板敷スプリングフライト(HG)  
3月19日~23日 [場]茨城県八郷町板敷山エリア [連]大沢豊 FAX.0299-44-1346  
E-mail: haku89@dream.com  
'03ジャパンカップCoo(PG)  
3月21日・22日 [場]茨城県八郷町上曾エアパークCoo [連]大会実行委員会  
TEL.0299-44-1408(エアパークCoo内)  
2003パラグライディングワールドカップ  
茨城(FAIカテゴリー2大会の予定)  
3月23日・29日(22日レジストレーション)  
[場]茨城県新治郡八郷町・真壁郡真壁町足尾山系 [連]PGワールドカップ茨城組織委員会  
TEL.0299-44-1408(エアパークCoo内)  
2003ハンググライディング日本選手権 in Ashio  
10月12日~18日 [場]茨城県八郷町足尾

1月	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
			1 元旦	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13 成人の日	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

2月	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11 春分の日	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		

山エリア [連]中島栄一  
TEL.0299-43-0893  
E-mail: info@set-ibaraki.co.jp  
デサントバードマンカップ獅子吼(HG)  
10月3日~5日 [場]石川県獅子吼高原  
[連]鶴来町役場商工観光課内「デサントバードマンカップ実行委員会」北村  
TEL.07619-2-1111  
最新情報はJHFホームページで。  
http://jhf.skysports.or.jp/  
JHF事務局は2002年12月28日から  
2003年1月5日まで業務を休みます。

# 委員会の動き

## 安全性委員会

11月20日、定例委員会を開き、以下を決定・確認しました。また、補助動力委員会と、動力付きの事故の扱い等について打ち合わせを行いました。

1. 下山委員より、9月15日に兵庫県で発生したパラグライダー重大事故について調査報告があった。(報告概要はP7)
2. 委員会ホームページについての決定
  - a: JHSCとしてセーフティーノーツを新規に立ち上げ、フライヤーへの安全情報の提供を充実させる。12月運用開始を目指す。
  - b: 優良パイロット表彰は実現の見込みが立たず、保留案として暖め、ページ上から削除する。
3. 阿部委員長より積極的に情報収集、分析の重要視が強調された。
4. マスコミに報道されながら事故報告書が出てこない事故について、県連により一層の協力を要請することとなった。

[記:幸路 尚文]

## 教習検定委員会

### 教員更新講習会

一昨年、テストケースとして実施した教員更新講習会について、実施後、参加者や正会員の皆様からアンケートにお答えいただく形で様々な意見・提案をいただきました。集計の結果、全国数箇所での実施を希望される方が多く、その方向で実施方法を検討してきました。

各地区で開催すると、委員会メンバーだけで運営することは困難であり、多くの方々の協力が必要となるばかりでなく、次に掲げるような規定類を含めた組織的な整備が必要となります。

1. 実施場所の選定と指定
2. 講習を担当する者の資格に関すること
3. 講習内容の統一化とこれに関わる技能証規程の追加
4. その他

以上のように重要事項が多く、理事会の議決承認が必要なものも含まれています。いずれにしても早急に、講習を担当する者の養成を図らなければならないと考えています。このような事情から、全国各地での開催は、もう少し先にならざるを得ません。委員会では、今年度事業として教員更新講習会が必要不可欠なものと考え、実施計画の策定(一箇所での開催)に入ります。実施について皆様のご意見をいただければ幸いです。

[記:小野寺 久憲]

## 制度委員会

たった2名の委員会ですが、頑張って

います。あと3名の空きがありますので、意欲のある方の応募をお待ちします。

11月18日の委員会で2003年度JHF制度総覧に掲載する規定の整理を行いました。

2002年度版の内容に追加する予定

- ・総会傍聴規約(案)
- ・規定作成管理要綱改定
- ・ハング競技委員会関連
- ・定款改定日、改定機関の追加等)

また、ドイツ・フランス調査項目について検討しました。以下の資料を英文で作成したものを事前に訪問団に送付、この資料をもとに調査研究を行います。

- ・調査目的: JHF組織の活性化のための海外組織の調査研究
- ・訪問先: フランス(FFVL) ドイツ(DHV)
- ・訪問期間: 2002年12月9日~16日
- ・具体的調査項目

- (1) 行政と統括団体との位置付け
- (2) 組織運営、特に経営面の実態調査
- (3) 事業予算の実態調査
- (4) 安全啓蒙活動の実態調査
- (5) 事故調査活動の実態調査
- (6) 保険制度の実態調査
- (7) イベントでの安全対策の実態調査
- (8) その他

[記:小林 秀彰]

## ハンググライディング競技委員会

ハンググライディングシリーズは2003年シーズンからGPSの全面運用を開始します。2003年ルールブックをよく読んでルールをご理解のうえ競技に参加してください。2003年シーズンの第1戦は、2002年12月31日から2003年1月3日までの「第17回西富士ジャパン・クラシック」第2戦は1月11日から14日までの「第14回丹沢スカイグランプリHG大会」です。結果

は随時速報の形でホームページにて発表する予定です。お楽しみに! また2002年に実施していたハンググライディングシリーズの現地登録を2003年も行います。

当委員会の情報はホームページにてお知らせしています。尚、事務局にメールをくだされば、競技委員会インフォメーションをお送りします。

H G競技委員会事務局

E-mail:haku@effect-jp.net

http://jhfskysports.or.jp/HG/

[記:日下部 はく]

## パラグライディング競技委員会

2003年度のジャパンリーグの受け付けが始まっています。年明けの1月には朝霧・白糸での大会が予定されていますので、出場を予定されている選手の方は早めに登録をお願いします。

2002年度は、この原稿執筆時には11大会中成立4大会と寂しい1年で終わろうとしています。2003年度には多くの方に競技を通してパラグライディングの楽しさを再発見していただきたいと思っています。

2003年度はルール上に大きな変更はありませんが、決定次第、競技委員会ホームページ上で発表しますのでご確認ください。

登録時に電子メールの登録をお願いしていますが、多くの選手から宛先不明で帰ってきてしまいます。アドレスが不明の選手はホームページ上で問い合わせていますので正しいアドレスをご連絡ください。

ジャパンリーグ参加選手のGPSに対する認識がまだ不十分な気がします。冬期間にGPSを使ったトレーニングをお願いします。

[記:曾我部 真人]

## 会員各位

## JHF

先頃、エンジン付パラグライダーによる都心上空フライトという社会常識を逸脱した行為が行われ、マスコミにも報道されました。

JHFは、このような行為がスカイスポーツ全般に悪影響を与える事を危惧し、広く会員に対しフライトマナーの遵守と相互の指導を呼びかけます。

我々が楽しんでいるこのハング・パラグライディングは現在のところ特別に法的規制を受けているわけではありません。しかし、そればかりを許されるということではありません。例えば、多くの人や車が集まり、建物が密集する上空を飛行するという今回のようなフライトは、フライヤー(パイロット)精神に反する独りよがりのフライトであるにとどまらず、一社会人として許容される自由を逸脱しています。万一、エンジントラブル等により不時着(最悪の場合は墜落)をした場合、第三者に損害を与える危険性が非常に高く、社会問題に発展する要素を多く含み、結果として法的規制を受ける可能性も多分にあります。

かつて、自由フライトが許されていたマイクロラ

イトプレーンは他者の迷惑を顧みない勝手なフライトにより「空の暴走族」と呼ばれ規制されるに至りました。

この無謀とも言えるフライトが、このスポーツだけでなく航空界に与えた負の影響は大変大きく、多くのフライヤーや航空関係者が迷惑を受けています。

私も社会と調和した自由フライトを擁護する団体として、このようなフライトが行われた事、また、再び行われる可能性を到底看過することはできません。JHFは、全フライヤーに、フライヤー宣言にうたわれたフライヤー精神の再確認とフライトマナーの遵守を呼びかけます。また、マナーを逸脱したフライトを抑止するためフライヤー相互による指導をお願いします。

フライヤー宣言

- 1 自己の意思と責任でフライトします。
- 2 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
- 3 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
- 4 自然を大切にします。

# JHF活性化対策委員会から

各地から名乗りをあげた委員と理事がJHFの活性化のために何が必要か、何をすべきか、話し合っています。あなたもぜひ意見を出してください。JHF事務局へメールまたはファクスで。

## 朝日 和博(会長)

全国組織ができてから約25年経ちました。日本ハンググライダーフライヤー連盟に始まり、その後日本ハンググライディング連盟に名称を変更しました。15年位前にパラグライダーが登場してフライヤー人口が急増し、7年前に社団法人として組織替えをして現在に至っています。

将来もJHFが存続していく為、内部システムの点検と改革が必要です。活性化対策委員会では、重要課題として残されてきたものと、現在求められているものについて議論をしています。具体的には、JHFの基本、事業と予算、都道府県連盟とフライヤー会員、安全の問題等です。立場の異なった意見を出し合いながら、より良いJHFを創造していく為に真剣に議論を積み上げていきたいと思っています。皆様のご意見も遠慮なくお寄せください。

## 伊賀 隆一(理事)

JHFの活性化の原点は、フライヤーと

各都道府県連盟の関係改善、会員の増強、風通しのよい理事会、の三点にあると考え、委員会に参加してきました。難問が続出し、改善、実行には難しいテーマが並んでいますが、各委員の真剣な取り組みは、必ずよい結論に至ると思います。

## 江端 邦昭委員(石川県連盟)

JHFの改善点は沢山ありますが、そのなかの三つをあげます。一つは情報の公開。二つめは会員と県連とJHFの一本化。三つめは教員のレベルアップと教員養成システムの構築。以上が特に重要だと考えます。

## 古川 正司委員(青森県連盟)

JHF組織は、フライヤーの意見が十分に反映された運営でなければならない。その為にどうすれば良いか半年間議論した。情報を共有し合い、皆さんで築き上げて運営できる組織を目指し、今後もフライヤーとして頑張っていきたい。

## 小林 秀彰委員(福岡県連盟)

JHFはフライヤー会員と会費で成り立っている公益法人です。フライヤー会員がJHFに不満を感じるならば、組織に入り込み行動するしかありません。私は、現在のJHFに不満をもっていますので、

積極的にJHFに関わってきましたし、不満が解消できるまでは今後も関わっていきたくと思います。活性化対策委員会でJHFの問題点を洗い出し、より良いJHFへの方向性が出せればと頑張っています。

## 関口 泰生委員(岡山県連盟)

これからの日本のスカイスポーツの行く末を考えていく上で、どのような組織・体系が受け皿として求められているのか？ 自分なりの意見も出しましたし、人様の意見や考える所も、色々勉強させていただきました。我々の出した指針が、今後のJHFの進む方向を明らかにし、スカイスポーツをより楽しめる環境創設の一助となれば、うれしいです。

## 寺嶋 司昭委員(岩手県連盟)

JHFとフライヤーのつながりと各地域の役割について、この半年間議論させていただいた。一般フライヤーの望んでいる事・身近な問題点をとりあげながら、今後のJHF活動のあり方との整合が図れたと思います。

即効性のある活動はなかなか難しいと思いますが、必ずフライヤーの皆さんがJHFをもっと身近に感じる時が来ると思っています。

## PG日本選手権優勝者にインタビュー

### 辻 強選手

----- 調子いいですね。

調子いいですね。韓国の大会からです。

----- それ以前は？

以前も調子は良かったのですが、なかなか大会ごとにまとまって上位に入れなかったですね。ですが、韓国のワールドカップからとても調子いいですね。

----- きっかけは？

私たちは今年ワールドカップでチームを組んだんですね。アメリカからマリオン・スコッティ、ブラジルからフランク・ブラウンとでアエロタクトレーシングというチームを組みました。彼らと一緒に生活をしながら、競技について色々とお話を聞いたのが生きてきたのではないのでしょうか。

----- どんなことについてですか？

例えば今まではただまっすぐにターンポイントへ行って感じてましたが、少し変えて色々状況判断しながら行って感じですかね。今までとはちょっと違う方法が分かりかけてきたと思います。

----- それはなんですか？

まだ秘密です。(笑)

----- 2本ともトップゴールでしたか？

やっぱり落ち着いて周りが見えていたのが一番良かったですかね。

----- タスク2では最初に仕掛けましたね。

そうですね。アドバンテージが取れたのは運みたいなものですが、早い段階で先にターンポイントを回れたので、そのアドバンテージを上手く利用して、焦らずゆっくりゴールまで行きました。

----- タスク3は？

アドバンテージが取れなかったため、渋い局面でもみんなで集団で駒を進めて、最後のFパイロンを回った時が勝負かなと思ってました。川地選手が先にFパイロンを取って少し先行しましたが、私の方が高さがあったので、そのまま最後抜いてゴールできました。2秒差ぐらいですか。

----- 勝因は？

上げるのはみんなほとんど変わらないと思うんです。あとはグライダーを滑空させる方法、常にリフトがあるところを飛んで、ロスが少ない飛びを心がけました。それが勝因じゃないでしょうか。

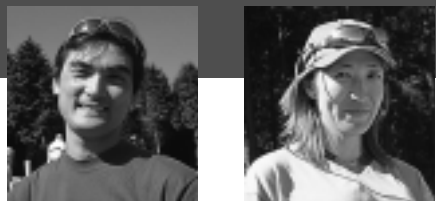
### 平木啓子選手

----- レースを振り返っての感想を。

タスク2はゴールできて嬉しかったです。リフライトです。

----- リフライトで焦りませんでしたか？

前日に降りた田んぼのまるで同じ所に降っちゃったんですね。条件が途中から良く



なったのもあるのですが、リフライトの時はそこをクリアしたいという気持ちで飛んでいたから、あれ？行ける、あれ行ける！という感じでゴールできました。

----- タスク3はどうでした？

ゴール手前のFパイロンが撮れずに降りちゃいました。最終ゴールをした人が一緒に北海道から来た人で、その人と山頂で回っていたのに、Lパイロンへ行く人がいないと勘違いして一人で先走ってしまったんです。その人は条件が好転するまで待ってゴールして、すごく悔しかったです。

----- 他の選手は意識してましたか？

大きな大会はあまり出たことがなかったんですね。Jリーグはこの大会を含めて成立した大会は2度目なんです。ですからまったく意識はしてませんでした。

----- 優勝の感想は？

とてもうれしいです。初めてなんですよ、Jリーグでゴールできたのは。実績もそんなにはないですから、今回の大会はめっちゃラッキーでした。総合でも22位！すごいまぐれです。これで調子に乗っちゃってこれからはJリーグに出ていきたいですね。

## 選挙活動のこれから

JHF役員選挙は選挙公示のとおり進みますが、理事・監事になってやろうと思う方は、1月中には必要な届けを整えて選挙管理委員長に提出してください。JHFの理事には一部に就任条件がつけられていますので、JHF役員選挙規程をよく読んで必要書類を用意してください。

ところで、全国の連盟の中には、所属する会員がその連盟の所在する都道府県の住民に限らない場合があることを、選挙管理委員会でも認識しています。このことは、選挙の問題とは別にJHFで話し合わねばならない事だと考えていますが、役員選挙についてはその手続きを定めたときにどうするか明記されています。

## JHF選挙管理委員会

理事・監事に立候補しようとする人は、2002年12月20日時点でJHFフライヤー会員であれば良く、立候補締切日までに住民票のある都道府県の連盟に所属し、そこから推薦を受けてください。(立候補届には選挙公示以降に発行された住民票の写しが必要です。)

一方、都道府県連盟は推薦を与えるのに、守らなければならない基準があります。ふだん別の都道府県連盟会員として活動している人でも、決まりにしたがって推薦判断をしないといけません。しかし同時に、都道府県連盟は選挙にあたって推薦した者へ投票をする義務はないものと明記されています。

## 海外調査研究に2名を派遣

2002年度海外調査研究として、理事会から関谷暢人常任理事、常設委員会から小林秀彰制度委員長の2名をフランス・ドイツの両連盟に派遣しました。

今回の課題は「組織の活性化のための海外組織の研究/特に安全啓蒙活動について」。12月9日から16日まで調査にあたった両名の報告は次号に掲載予定です。

## JHSC型式登録機

プロトタイプパラグライダー  
 2002年10月9日新規登録  
 XP-051 ウインドテック シンクロ25型プロトタイプ 平木啓子  
 XP-052 ウインドテック シンクロ25コンベ型プロトタイプ 大城芳郎  
 XP-053 ウインドテック シンクロ27型プロトタイプ 江本俊信

# 理 事 会 ダ イ ジ ェ ス ト

### 11月15日理事会

2002年11月15日(金)13時～17時 JHF事務局会議室  
 出席:朝日和博、伊賀隆一郎、関谷暢人、瀬戸口裕郎、田中美由喜、長谷川光雄、藤野光一、松永文也、宮川一郎、宮田富由  
 各理事 欠席:横尾和彦理事 宮川雅博監事  
 (出席理事10名、定足数を満たし成立)議長:長谷川光雄

#### 審議1:今年度の海外調査研究について

JHF組織活性化のため、フランス(FVVL)、ドイツ(DHV)の海外組織研究調査の提案が出された。調査項目は、国内行政と統括団体との位置づけ、組織運営、経営面の実態、安全啓蒙活動、事故調査活動、保険制度の実態、イベントにおける安全対策など。メンバーは関谷常任理事と、常設委員会より小林委員、文書理事会にて採決が取れているが、再度審議。賛成9、反対0で可決した。

#### 審議2:HGルールブックの改訂について

国内でのハンググライディング競技をFAIルールに均衡させるため、以下4点についての改訂が提案された。FAIルールに準拠、カメラ撮影判定からGPS判定採用、GAPシステム採用、オーガナイザーハンドブックの設置。文書理事会にて採決が取れているが、再度審議。賛成9、反対0で可決した。

#### 審議3:競技得点計算用パソコンの導入について

2002年のHG大会において、参加選手延べ400名に対して

GPS判定をテストした結果、現競技委員長個人所有のパソコンでは容量不足によるトラブルが多かった。世界的にも競技の判定・集計方法はGPSとパソコンを用いたものに移行している。トラブルを避けるためにもGPSセクター判定及びGAP得点計算専用のパソコンが必要。専用パソコン導入について採決。賛成9、反対0で可決した。

#### 審議4:GPS判定ソフト購入について

最初の1年は無料だったが、現在は2年間で8万円。審議3の決定に基づき、パソコン同様必要なものとして採決。採決の結果、賛成9、反対0で可決した。

#### 審議5:JHF2003年度事業計画及び予算計画について

2003年度事業計画と予算案の草案が出された。2002年の事業計画をベースに考えていること、愛好家が減少していることを踏まえ、追加・修正した案を12月理事会にて再度審議することになった。

#### 審議6:JHF事務局の給与基準について

JHF賃金規程において「基本給は本人の経験、年齢、技能、職務遂行能力等を考慮して、各人別に決定する」とあり、曖昧であった。

JHF事務局業務を安定して継続できる人材確保のためにも給与基準の設定が必要。東京都実在者賃金によるモデル賃金表をもとにJHFとしての賃金表を作成することで採決。賛成9、反対0で可決した。

### 審議7:JHF2002年度3月通常総会開催について

開催日:2003年3月11日(火)  
 場所:東京都羽田空港「ビッグバード」  
 時間:10:00～12:00 情報交換会  
 13:00～17:00 通常総会  
 17:30～18:00 親睦会

採決の結果、賛成9、反対0で可決した。

審議8:クラス1フレ世界選手権参加援助費用について  
 2003年度世界選手権選手派遣予算から10万円を2002年クラス1フレ世界選手権参加援助費に振り換える。採決の結果、賛成9、反対0で可決した。

#### 審議9:2003年度HG日本選手権の開催について

下記のとおり茨城県から立候補があった。日程:2003年10月12日～18日 場所:茨城県八郷町足尾エリア 参加予定人数:80人 参加費:45000円 詳細については今後主管関係者と煮詰めていくものとする。採決の結果、賛成9、反対0で可決した。

#### 審議10:2003年度国際航空連盟賞の推薦について

1. FAI HANG GLIDING DIPLOMA 該当者:山崎勇祐氏  
 2. エアスポーツメダル 該当者:古川正司氏  
 両氏は各賞の推薦に値する功績をあげている。採決の結果、賛成8、反対0、棄権1で可決した。

\*10月は理事会が開催されませんでした。

## 理 事 活 動 報 告

JHFの理事は、それぞれが担当する事業が滞りなく進行するよう、さまざまな仕事をしています。9月下旬から11月下旬までの活動内容を各理事に報告してもらおう。

### 会長 朝日 和博

2003年5月開催予定の「スカイレジャージャパン'03」の発起実行委員会が10月31日に石川県七尾市で開催されました。これは2003年7月に開港を予定している能登空港建設地で、開港に合わせてスカイレジャーの普及振興を図るためのイベントであります。航空協会をはじめ石川県、能登空港地元市町村、関連経済界並びにJAA傘下の各航空スポーツ団体がメンバーとなっております。航空スポーツ普及の為にJHFも積極的に協力しています。

ハンググライディング女子世界選手権並びにクラス2、クラス5の世界選手権を招致するための行動を起こしています。2004年に茨城県八郷町周辺エリアでの開催をCIVLに要望しています。

2003年度に向けて事業計画と予算作成作業が始まりました。限られた予算を有効に活用していきたいと思えます。皆様のご協力をお願い致します。

### 常任理事 関谷 暢人

9月28日から「モーターパラグライディング選手権」に競技役員として参加。残念ながら競技中の選手が高圧線の鉄塔にぶつかってしまう事故がありました。10月4・16日:須

坂警察署訪問。15日:スポーツ基金の説明会へ参加、総勢500名程がおりました。10日:常任理事会と活性化対策委員会。31日:神奈川県庁の職員の方が来社、スカイスーツについてのリサーチに対応(矢倉岳の再開をお願いしました)。11月18日:制度委員会会議。その他、理事会・常任理事会・訴訟関連・活性化対策委員会・予算編成室として、海外調査研究など、電子メールのやり取りや書類作成などに忙しい。ゆっくりしたいところだが、次は総会の準備である。これを読んでいる正会員代表者よ!議長を率先して受けてほしい!!積極的な連絡をお待ちしています。

### 常任理事 長谷川 光雄

航空協会主催の青少年のための航空スポーツ教室が開催されます。協力は各地方自治体、教育委員会、関係団体、航空会社など。JHFもパラグライダー教室担当として協力することが決まり、私が理事会内の担当になりました。各都道府県連盟の協力を仰ぎ、全国の青少年の育成及び航空スポーツの普及発展のために、全面的に協力していきたいと思っています。(13ページを参照)

### 理事 伊賀 隆一郎

2003年HGシリーズのルール改正に伴い、GPS使用の競技

に対応するため、厳しい予算の中から出費をお願いいたしました。また、約半年にわたってJHF活性化対策委員会に出席し、委員の方々の真剣な討議の中で、具体的な対策案を模索しています。

### 理事 藤野 光一

10月は、初回参加出来なかったJHF活性化対策委員会に出席させていただき、委員の方々の前向きな姿勢に感銘を受けました。問題も多く、議論しながら良い方向に向けるためにも、今後も委員の方々のみならず、多くの皆様の御支援をお願いいたします。11月は理事会に出席し、来年度予算や総会に向けての議案について審議いたしました。

### 理事 松永 文也

広報出版部は白書発行に向けて作業を開始しています。白書はJHFの活動の全てをデータという形で表現するもので、永らく懸案となっていたが人手不足で実現出来なかったものです。3月総会には間に合うよう作業を進めておりますのでご期待ください。また、例年通り厚生活動補助事業費にかかる社会福祉活動に関する調査を実施しています。フライヤーによる草の根的な社会福祉活動の掘り起こしにご協力をお願いします。

# @sky

空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。  
 いつでも心は空の彼方というあなた、必読！  
 もちろん寄稿も大歓迎。  
 「お題はなあに？」や「大会報告」、エリア紹介、フライト自慢、  
 JHFへの意見など、どしどし送ってください。  
 koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

## NEWS

### HG 世界選手権の誘致へ

ハンググライディングのクラス1女子、クラス2、クラス5の2004年世界選手権を茨城県に誘致する準備が始まりました。

ハンググライディング世界選手権は81年に大分県別府市で、93年に女子大会が山形県南陽市で開催されており、茨城大会が実現すれば三度目の国内開催になります。

### PG ワールドカップ茨城大会

3月23日から29日まで、茨城県新治郡八郷町・真壁郡真壁町で「2003 パラグライディングワールドカップ茨城」(FAI カテゴリー2)が開催される予定です。

世界のトップパイロットのフライトを間近に観るチャンスです。パラグライダー体験会や熱気球体験搭乗の計画もあります。

### 青少年のための航空スポーツ教室

こどもたちの理科離れをくいとめ、空の魅力を知ってもらおうと(財)日本航空協会が「航空スポーツ教室」を開設します。

対象は小学校高学年・中学生。1教室あたり20～50名を予定。パラグライダー、模型飛行機、ロケット、気球体験、その他航空関係講演会の5教室を開き、JHFはパラグライディング教室の担当として協力します。年に6回実施、第1回は2003年2月8日、群馬県昭和村の東小学校で開催の予定です。

### 足尾山でHG日本選手権

2003年ハンググライディング日本選手権を、10月12日～18日、茨城県八郷町足尾山エリアで開催することを決定しました。

### 優良スカイレジャーエリア認定事業

安全かつ、快適にフライトできるエリアを全国的に広めることを目的に運輸省(現国土交通省)が制定した事業を、(財)日本航空協会からJHFが引き継ぎました。詳細はJHF ホームページに掲載しています。

## 高円宮さまの思い出

高円宮さまのご逝去を心よりお悔やみ申し上げます。

さまざまなスポーツに関わっていらした高円宮さまは、ハンググライディングを間近にご覧になったことがあります。1993年に山形県南陽市十分一山で開催された第3回女子ハンググライディング世界選手権においていただいたのです。

テイクオフ地点では、機体を組み立てている各国の選手に気さくにお声をかけられ、たいへん興味をもたれたようでした。昼食会に招かれたイギリスのジュディ・レーデン選手と、トンビと一緒に飛んでいる時に目が合ったことを、とても楽しそうに話されていたのが印象に残っています。

スカイスーツにもご理解のある宮さまを失ったことは、JHFにとりましてもたいへん残念なことであります。ここに謹んで哀悼の意を表します。

JHF会長 朝日 和博

## タメにならない航空史-11

### 輸入機あれこれ(2)

矢ヶ崎弘志



ハインケルHe-116「乃木」号

今回の話題は1938年(昭和13年)にドイツから2機輸入された、ハインケルHe-116にまつわるエピソードである。

この機体は長距離輸送用に開発された実用機だから、ライオンNYPのように使い勝手が悪かった訳ではないけれども、日本への空輸を前にして珍事を起こした。

1号機を受領してから2号機の完成までにかなりの間があったことが騒動の発端だった。空輸のためにドイツへ派遣されていた日本人パイロットたちが、1号機を勝手に持ち出して、「リビア砂漠横断飛行」という懸賞レースに参加してしまったのである。彼らにしてみれば「どうせ暇なんだから、慣熟飛行の意味からも有意義だし、ひょっとしたら賞金を手にすることだってできるかもしれない」というくらいの軽い気持ちだったようだ。

何事も無く終わってれば、ぜいたくな暇つぶしをしたものだとか陰口をきかれる程度ですんだけれど、そうはいかなかった。

出発して早々、アルプスの上空で烈しい

雷雨に遭遇してダメージを受け、イタリアの空軍基地へ予定外着陸するはめになってしまう。基地の整備隊に頼みこんで修理を受け、あらためてアフリカに向かったが、今度は砂漠の真中に不時着。またまたイタリア空軍のお世話になって、どうにかベルリンへ帰還した。とても賞金を稼ぐどころの話じゃない。

このパイロットたちの任務は、受領した機体を大事に日本まで運ぶことだったはず。それを出発前の気紛れ飛行で疵物にしたんだから大失態である。彼らは選ばれてドイツに派遣された腕利きぞろい。それが悪戯盛りの子供なみの無分別をしてかしたのには、退屈だったという以外に、もうひとつ原因があった。鬱憤晴らしである。

この時の空輸チームに混じていた軍人パイロット(陸軍少佐)が、ハインケル社の飛行訓練で民間パイロットより格下の扱いを受け、面白くなかったらしい。そこで他のパイロットを強引に口説き落として、アフリ

カへ向かってしまったのだ。ドイツと違って、日本じゃ軍人パイロットの地位は高いんだぞ、と言いたかったんだろう。なんとも大人気ない行動であった。

機体の損傷は軽く、完全に修理されていたとはいっても、やはり新品とは呼べないだろう。不思議なのは、高価な買い物でも多少難ありの状態にして日本へ持ち帰ったというのに、パイロットたちが厳しく責任を問われた形跡がないことだ。

あの頃の軍人は随分と威張っていたから、「損害は軽微。きちんと修理してもらいました。飛行に支障はありません」分った。以後は気をつけろ」などという言葉のやり取りだけで済んでしまったのだろうか。

さて、日本へ到着した2機のHe-116は「乃木」「東郷」と命名され、中国大陸への郵便飛行に活躍した。日本で人名を航空機の愛称にした例は、今に至るまでこの2機以外にはない。



# 大会報告

📄 Japan Cup スキージャム勝山2002  
9月21日～23日

福井県勝山市 スキージャム勝山

1位	只野正一郎	兵庫県	1000点
2位	小幡 洋三	愛知県	915点
3位	植田 慎吾	岡山県	704点
4位	長島 信一	埼玉県	679点
5位	伊藤 博之	茨城県	664点
6位	山本 泰弘	石川県	622点
7位	伊藤 正秋	山形県	617点
8位	扇沢 郁	富山県	608点

初日、絶好のコンディションに66kmタスクを設定。昼から高層雲の発達が進み条件は渋くなったものの、57.4kmを飛んだ只野選手が1位に。2日目、低い雲底に阻まれ、20km弱のタスクを決行。しかし、あまりに渋いコンディションにゴールした選手はいなかった。3日目、朝から北サイド風が5m以上でフライト不可と判断。午後、表彰式後解散となった。 [報告:堀 幸雄]

📄 ハンググライダープレ日本選手権 in Ashio 2002  
9月20日～23日  
茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア

[ 総合 ]

1位	岡田 伸弘	静岡県	1688.0点
2位	板垣 直樹	茨城県	1346.5点

3位	永光 秀明	千葉県	1284.3点
4位	村松 学	茨城県	1282.8点
5位	安東 正夫	東京都	1274.3点
6位	加藤 実	神奈川県	1256.8点
7位	氏家 良彦	大阪府	1253.6点
8位	平林 和行	千葉県	1218.4点

[ 女子 ]

1位	高橋恵里子	群馬県	877.3点
2位	岡田 明子	静岡県	853.3点
3位	福田 佳代	茨城県	850.7点

事前の気象予報では成立が危ぶまれたが、初日は晴天、54kmタスクで4名のゴール者が出て成立。2日目は高層雲がはりつめていたが40.4kmのタスクを設定。ゴールは出なかったものの8名が30km以上飛んだ。3、4日目は天候不良でキャンセル。初日ゴール、2日目最長距離の岡田選手が優勝した。 [報告:日下部 はく]

📄 第17回菅平カップ  
9月28日・29日  
長野県須坂市  
天候不良のため2日間ともキャンセルとした。 [報告:中台 章]

📄 2002デサントバードマンカップ獅子吼  
第21回記念大会  
10月4日～6日  
石川県石川郡鶴来町 獅子吼高原

[ クラス1 総合 ]

1位	加藤 実	茨城県	950.0点
2位	阿部 貢造	千葉県	900.3点
3位	砂間 隆司	茨城県	874.0点
4位	今嶋 功	鳥取県	865.8点
5位	桂 敏之	茨城県	850.3点
6位	松村 貴博	鳥取県	825.6点
7位	岡田 伸弘	静岡県	791.4点
8位	峰岸 正弘	茨城県	764.8点

[ クラス1 女子 ]

1位	岡田 明子	静岡県	423.4点
2位	高橋恵理子	群馬県	299.1点
3位	榊原 綾子	茨城県	194.8点
3位	小間井みゆき	茨城県	194.8点
3位	澤田ほむら	神奈川県	194.8点

[ クラス5 総合 ]

1位	板垣 直樹	茨城県	1000.0点
2位	佐々木弘道	千葉県	634.2点
3位	藤田 直己	東京都	619.9点

クラス1 & 5 同時開催、総合優勝者1名がデサント杯を獲得するデサントバードマンカップに全国から83名のフライヤーが集まった。初日と最終日は強風で競技中止。2日目は好天に恵まれ37.5kmのタスクを設定。従来の競技コースは山沿い往復が多いが、今回は沖合い5km地点にパイロンを設け一周22.8kmのサーキットコースに。各パイロンをダイレクトに攻略した阿部選手が単独でファーストゴール。新鋭加藤選手が

### おでこの眼鏡

自分に惚れたとき.....それは新しいサングラスを買ったとき。四六時中鏡に映る自分によいしれてました。鏡の自分にもとれながら、とりあえずワンショット! 髪をキメてワンショット! 斜め43度でワンショット! ポーズをとって、振り向きざまに、大胆ポーズで、フラッシュ付きで.....それを10分毎に3セット! 頭痛、吐き気すらする酔いっぱりでしたね。

ペンネーム:酒と車と私

### フライヤーの必需品

縦列駐車。これは難しい。教習所みたいにはポールはないし、ハングを積むバンはでない。それが一発で決まったときは感激です。自分の運転技術に惚れ惚れすると言っても過言ではないでしょう。

ん? 自惚れかな。

ペンネーム:飛びだけじゃない僕

### 夕暮れ

夕暮れのランディング。飛び終わったフライヤーが見守る中、大技をバシッと決めて、何事もなかったように降りる。「おつかれ」とさやかに皆に声をかけ、サングラスをとる。ああ、爽快。

ペンネーム:うぬぼれ1号

### やっぱ初級機!!

ちょっと風が乱れていて、ベテランパイロットたちがテイクオフに苦戦している中、何事もないようにスッと立ち上げて振り返り、軽く走ってテイクオフしていく自分。まだバラを始めて1年もたっていないB級生なのに、ベテランパイロットよりテイクオフがうまい。って、初級機だから?

ペンネーム:テイクオフのセオリー

## お題はなあに?

今回のお題は「自分に惚れたこと」  
自分に酔えるってことは  
かなりシアワセなことなんだな.....

### 若気の至り

あれはまだバラを始めて2年ぐらい、ちょうど脂と調子がのってた時期、多少大袈裟に言うが私は九死に一生の生還をした。その時、溢れだすアドレナリンを感じつつ自分の力量に自惚れた。機体を立て直し

落ち着かせると、さながら世界を制したかのようなコメントで独り勝利者会見をして、カメラ映りを気にした表情でキメゼリフを呟いた。そして大して荒れてもいない帰途、過敏な機体コントロールにシャウトしながら酔いしれていた。今思い出すと恥ずかしい若気の至りですな。

ペンネーム:十代の頃


### 次回のお題は

「私のエリアの な人」


エリアで出会うとてもユニークな方や、一風変わった装備をしている方など、いろいろな な人のお話を募集します。もちろん自分のことを紹介していただいても構いません。

このコーナーでは、お題にそった皆さんの体験談をお待ちしています。笑える話、ホロリとくる話、ビックリする話、大歓迎。200文字程度の文章にして、EメールまたはFAXでお送りください。ペンネーム、氏名、住所、電話番号、Eメールアドレスを忘れずに書き添えてください。採用の方には、図書券をプレゼントします。  
Eメール:koho@jhf.skysorts.or.jp  
FAX:03-5840-8312  
「JHFレポートお題はなあに?係」まで。

最速でゴールシクラス1で1位。女子では岡田選手が連覇。総合では板垣選手がクラス5の性能をフルに発揮しデサント杯と賞金を手にした。 [報告:金子 外幸]



 第19回十分一山ハンググライダー大会ワインカップ  
10月12日・13日  
山形県南陽市 南陽スカイパーク(十分一山)  
1位 板垣 直樹 茨城県 300点  
2位 大沼 浩 茨城県 210点  
3位 山本 貢 茨城県 180点  
4位 松本 圭一 福島県 173点  
5位 MAX 伊藤 東京都 173点  
6位 横山 豪 千葉県 101点  
7位 大川 泰右 群馬県 52点  
7位 秋山 拓二 千葉県 52点


[女子]  
1位 湯村 真帆 東京都 52点  
2位 富岡恵美子 東京都 32点  
初日は晴天。南東からの風から東風が強くなり、早めに出た選手もタスクを消化できずゴール者無しで終わった。2日目も晴れたが、南東微風、ゲートオープンするも逆転層が取れず、この日もゴール者無しと終わった。 [報告:高橋 明]



 2002米、こめカップ  
10月12日・13日  
福島県熱塩加納村 エアパーク三ノ倉高原  
[エキスパートクラス]  
1位 平野あや子 千葉県 1507点  
2位 中田 孝宏 千葉県 1472点  
3位 岡松 和彦 千葉県 1443点


4位 青木 政昭 千葉県 1351点  
5位 塚田 義明 茨城県 1297点  
6位 山崎 浩志 神奈川県 1168点  
7位 斎藤 孝喜 栃木県 1160点  
8位 佐々木美香子 宮城県 1098点

[オープンクラス]  
1位 鈴木 俊 福島県 1711点  
2位 福田 隼士 福島県 1706点  
3位 高橋 秀光 千葉県 1611点  
4位 原 友美 茨城県 1565点  
両日とも最高のフライト日和。順風のもと安全で楽しい競技ができました。大会後も飛べ、延べ300本近いフライトがありました。 [報告:昆野 克昭]

  新人戦2002(学生)  
10月26日・27日  
山形県南陽市 南陽スカイパーク(十分一山)  
初のハング・パラ合同大会だったが、両日とも強風と雨でキャンセル。 [報告:永井 洋平]

 第19回あぶくま洞オープンカップ  
10月26日・27日  
福島県田村郡 仙台平エリア  
2日間とも強風のためにキャンセルとした。 [報告:松本 圭一]

  平和カップ2002  
11月2日～4日  
広島県広島市 神の倉山・荒谷山エリア  
強い冬型の気圧配置が続き、競技はキャンセルとした。 [報告:大田 祐輔、児島 彰]

 秋のJリーグ NASA CUP 2002  
11月2日～4日  
茨城県新治郡八郷町 足尾山エリア  
3日間とも南西風が続き、2日目に飛んだものの不成立。結局1本も成立せず終了した。 [報告:山下 慎吾]

 西日本学生ハンググライダー選手権大会2002 in 豊田  
11月16日・17日  
山口県豊浦郡豊田町 華山  
[1st.クラス]  
1位 津田 英直 東京都 767.9点  
2位 野尻 知里 東京都 668.9点  
2位 野呂 文人 千葉県 668.9点  
2位 堀部 貴弘 広島県 668.9点  
2位 寺本 隆志 京都府 668.9点  
6位 牧野 祐一 千葉県 497.9点  
6位 松浦 彩乃 山口県 497.9点  
8位 石坂 繁人 千葉県 430.3点  
8位 深見 弘司 大分県 430.3点

[2nd.クラス]  
1位 石田 武司 千葉県 1973点  
2位 西村 豪 千葉県 1575点  
3位 藤瀬 晶子 鳥取県 1204点  
1st.の48名、2nd.の16名、両クラス2日とも飛べた。初日はそこそこの条件。雲底についた選手もいたがゴールは出ず、多数がアウトサイドで0点という厳しい結果。2日目は条件が渋く、ミニマムよりひとつ多くまわった選手がトップに。指定ランディング場に降りたか否かが命運を分けた大会だった。 [報告:沖津 康樹]

## 学連だよ!全員集合!!

あけましておめでとうございます。

1・2月号のあいさつだからこんな始まり方をしてみましたが、みんながこれを読んでいるのはまだ12月なんですよ。サークルで忘年会や新年会をやることも多いと思いますが、騒ぎ過ぎて周りに迷惑をかけたらしなくて、そのエネルギーを学生リーグにぶつけてください。ということで今回は3月の学生リーグファイナルについて書いてみました。(これを書いている11月の時点ではまだ正式に決定していないこともあるので、詳細は次号や学生リーグのホームページをご覧ください。)

### HG学生リーグ・Gリーグファイナル

いよいよHG学生リーグ、Gリーグともに3月のファイナルを残すのみとなりました。HG学生リーグのファイナルとなるのは竜門で行われるHG学生選手権、Gリーグのファイナルは足尾で行われるパラフェスタです。8月に行われたパラの学生選手権は台風の影響を受けて不成立、はじめてハングとパラがそろっての開催となった新人戦も強風のため成立しなかっただけに、残るHG学生選手権、パラフェスタはよい天気で、

すばらしいコンディションで開催できることを願っています。(これを書いている時点ではまだハングの西日本学生選手権はどうなったのかわからないのですが、無事成立したのでしょうか?)

そしてこのHG学生選手権、パラフェスタはそれぞれ2002年度のHG学生リーグ、Gリーグの年間優秀者の表彰の場となります。Gリーグにとっては初めてのリーグチャンピオンが誕生します。また今回の注目は、団体戦で優勝したサークル・団体に授与される優勝旗が新しくできるということです。学連では予算を考えながらできるだけいいものを選んでるので、期待してください。

続いては毎回各地区の代表の人に書いてもらっている紹介のコーナーです。

今回は九州学連の紹介。冬・春の休みに九州に飛びにいてみたいと思っている学生には参考になるのではないのでしょうか。

### 九州学連の紹介

こんにち。今回は九州学連の紹介をします。

九州学連は、熊本大、西南大、大分大、長崎

大、九州大、九工大、第一工大からなってます。

エリアは、パラは九州の真ん中阿蘇の見渡す限り緑の夜峰と、揚がってしまえば外輪山が見渡せる兜岩を中心としています。ハングはというと以前学生選手権の行われた、連山から飛び出す耳納と海の見渡せる火山です。

また、今夏にパラ学選が行われるはずだった宮崎の鏡山も有名どころの一つです! 残念ながら台風到来により中止になってしまいましたが、通常は確率の高いエリアです。学選で飛ぶ予定だったのに...という人も、自分のエリアは冬は飛べない!という人も、学生のうちにぜひ九州に飛びにきてください! 本場のとんこつラーメンと九州男児があなたを待ってます...!?

学連への連絡は.....

「学連に加盟したい!」や「もっと詳しく学連のことを教えてほしい」やその他学連への応援・苦情は下記まで。

別田義典(福井県立大学3年)

Eメール:s0012088@s.fpu.ac.jp

学連HP <http://www.geocities.co.jp/>

Outdoors/2273



空のかお  
その47

島崎 美代子さん  
(シマザキ ミヨコ)



以前からパラグライダーのことが気になっていて、いつか飛んでみたいと思っていた島崎さん。たまたま通りがかった付知エリアで飛べることを知り、体験フライトから始めました。9月にパイロット証を取得。最近、風が強くてあまり飛べていないそうです。

これからは、クロスハンドテイクオフがもっと上手くなるように練習して、いろいろなエリアに飛びに行きたいと語ってくれました。

これから、ますます寒くなってきますが、寒さに負けず頑張ってください。

連絡ノート  
JHF  
フライヤー

年末年始は事務局業務を休みます

2002年12月28日(土)から2003年1月5日(日)まで、JHF事務局は業務を休みます。お問い合わせや技能証の申請等は早めにお済ませください。皆さん、よいお年を。

HPにセーフティーノーツ掲載

JHFホームページ、常設委員会・安全性委員会のページで「セーフティーノーツ」の掲載をスタート。ぜひご覧ください。

役員選挙の相談窓口

選挙管理委員会が役員選挙についての相談を受け付けています。お気軽にどうぞ。

E-mail:senkyo@jhf.skysports.or.jp

電話およびFAXはJHF事務局まで。

メール、電話、FAX、いずれの場合も、お名前と選挙管理委員会からご連絡できるメールアドレス、電話番号等の連絡先を明らかにしてください。

2002年度3月総会の傍聴について

2003年3月11日(火)東京都羽田空港ターミナルビル「ビッグバード」にて2002年度3月通常総会を開催します。傍聴を希望される方は2月28日までに、事務局にご連絡ください。

旧申請書は2002年12月31日まで

教員の皆様へ:正確かつ迅速な技能証発行のため、新しい技能証申請書を作りました。新申請書は1種類のみ。この用紙で、全技能証の申請ができ、紛失等による技能証再発行申請もできます。ご請求は事務局まで。

社会のための活動を調査

フライヤーによる社会のための活動を、厚生活動補助事業としてサポートします。都道府県連盟を通じて活動を調査中です。

未成年の技能証申請

未成年の技能証申請には、保護者の承諾が必要です。詳しくは、技能証規程を参照してください。

ポイントシステムへのエントリー

ハンググライディングとパラグライディングのポイントシステム、「ハンググライディングシリーズ」『ジャパンリーグ』の2003年登録申込み受け付けを行っています。参加をご希望の方はJHF事務局まで。

尚、SPS(スポーツパラグライダーシリーズ)は事前に登録する必要があります。SPS大会に気軽にご参加ください。

氏名・住所等が変わったら

お名前やご住所が変わったら、すぐ事務局にお知らせください。ご連絡がないと、JHFレポートをお届けできません。

JHF事務局

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312

(電話は月～金曜日の9:30～17:30に)

E-mail:jhf@skysports.or.jp

10月・11月のパイロット証取得者

(敬称略 数字は認定日)

パラグライディング

10/2	岩井 良信
10/2	合田 一彦
10/2	宮川 成次
10/2	真鍋 正幸
10/2	関 日出海
10/2	山本 陽一
10/2	藤本 寛治
10/2	小杉 達彦
10/2	栄城 徳彦
10/2	加藤真由美
10/2	小山 繁樹
10/2	東見 洋
10/2	熊谷 幸広
10/2	山田 智裕
10/2	石井 信一
10/2	江尻 洋二
10/2	徳岡 秀一
10/3	小林 信治
10/3	船戸 直樹
10/4	高橋 秀樹
10/4	藤田 庸子
10/9	植村 恵次
10/9	浅田 一郎
10/11	三本 俊如
10/11	立園 誠

10/11	中石 幸子
10/11	梶 順一郎
10/11	前田 清彦
10/11	内山 勝久
10/16	丹羽 仁
10/16	鈴木 豊美
10/16	近藤 孝子
10/16	須永 宏
10/16	古里 聡子
10/16	一之瀬 敬
10/22	若林 茂
10/22	野口 均
10/22	高橋 光乃
10/22	島崎美代子
10/23	小沢 史亮
10/23	長谷川 隆
10/23	伊藤 昌実
10/23	飯村 利博
10/23	能澤 淳一
10/24	三浦 葉子
10/24	溝口 喜一
10/24	竹内 明
10/30	福留 啓介
10/30	中井 伸一
10/30	長野 美紀

10/30	鬼塚 満則
10/30	西村 力
10/30	後藤 芳夫
10/30	米村 義博
10/31	小木曾宣哉
10/31	長沢 利治
10/31	池田 重夫
10/31	東 亮子
10/31	久保 知陽
10/31	鎌田 康
11/7	正田 哲治
11/7	梅本奈美子
11/7	梅本 隆
11/7	福永 健
11/7	黒木 勉
11/7	後藤 建也
11/7	西田 豊
11/7	小塩 栄一
11/7	藤原 真志
11/7	佐々木 純
11/7	小塚 龍馬
11/8	渡邊佳代子
11/12	宮崎 正一
11/12	伊藤 隆明
11/12	清水 哲朗

11/12	加茂 輝三
11/12	木村 美幸
11/12	住吉 唯子
11/12	森谷 広暁
11/13	丹下 信次
11/15	長田 和美
11/15	木原祐紀子
11/19	平本 恵護
11/19	倉窪ゆかり
11/22	横田千佳男
11/22	宮下 雅道
11/22	清水 崇宏
11/26	長尾 武吉
11/26	田村 清隆
11/26	岡崎 浩一
11/26	岡崎 志郎
11/26	宮本 晋一
11/26	岡村 芳美
11/26	中村八十二
11/26	松林 雪江
11/26	岡野 久
11/26	高橋 洋幸
11/26	加藤 善行
11/26	蘆田 光
11/26	山本 浩人

ハンググライディング

10/4	野尻 知里
10/16	佐藤 史宏
10/22	前谷津二男
10/24	中野 宏紀
11/8	三浦 亮
11/12	市橋 亮
11/29	高山 知彦
11/29	濱川 仁志
11/29	小島 悠司

11月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	9月30日現在の有効登録数	10月の登録数	11月の登録数	11月30日現在の有効登録数
1年		794	554	
3年		500	301	
合計	19,467	1,294	855	20,164

10月・11月の技能証発行数 ( )内の数字は発行数中の女性の人数です。

技能証種類	ハンググライディング			パラグライディング			
	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計	技能証種類	10月の発行数	11月の発行数	11月30日までの発行数累計
A証	31(4)	6(1)	12,220	A証	231(65)	262(96)	47,971
B証	30(5)	5(1)	11,795	B証	122(25)	124(33)	42,950
C証	11(3)	11(0)	7,079	NP証	78(14)	58(12)	10,989
P証	4(1)	5(0)	5,016	P証	60(11)	51(8)	20,077
補助動力証	0	0	129	補助動力証	4(0)	2(0)	2,962
XC証	0	1(0)	1,193	XC証	20(1)	22(5)	4,191
タンデム証	0	0	48	タンデム証	14(1)	18(0)	783
モーターパラグライディング							
P証	0	45(0)	121				

編集を終えて

謹賀新年。航空協会からのフライヤー登録の移管が完了し、2003年からは登録者全員にJHFレポートをお届けします。ページは少ないし、文字は小さいし、カラー写真はないし.....でも役立つ情報満載です。ご愛読ください。JHF広報出版部

JHFホームページもご覧ください。

<http://jhf.skysports.or.jp>

i-MODE(NTT DoCoMo) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/i/index.html>  
J-SKY(J-PHONE) <http://jhf.skysports.or.jp/mobil/j/index.html>  
EZweb(au DIGITAL au cdmaOne, TU-KA) <http://www.d2.dion.ne.jp/haku/jhf/ez/index.wml>

JHFレポート1・2月号(No.175)

発行日 2002年12月20日 定価10円  
発行 (社)日本ハンググライディング連盟  
〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階  
TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312  
E-mail : jhf@skysports.or.jp  
編集 JHF事務局広報出版部  
印刷 日本印刷(株)

この印刷物は再生紙を使用しています。